

スキルをつなげよう

個人スキルのマネジメントストラテジー

近年、プレアワード、ポストアワードといった言葉が並ぶURAの公募を普通に見かけるようになりました。しかし、ひとたびURAになると、プレアワードだけではなく、ポストアワードや関連専門業務、研究戦略推進支援業務といった、各分野のミクロなスキルも首尾よく関連づけることで、マネジメントとして功を奏することがよくあります。つまり、URA個人にとっては自分のスキルそのものをマネジメントするという観点も重要になります。

当会は、最先端を目指す研究者と共に錬磨する登壇者の、幅広いURAの経験から、経営陣との関わりや、ポストアワードでの地道な種まきからプレアワードにつなげてプロジェクトの成長を支える道のり、苦労話等々、URAの面白さを交えて、マネジメント業務でいかにスキルを活用するかに焦点を当てて、2名の講師にご講演いただきます。

まず、東京大学で主にURAスキル標準策定も携わり、現在は新構造材料技術研究組合（ISMA）でフェローとして従事している山下秀氏から、プロジェクトマネジメントの経験を、いくつか紹介いただき、全体的に共通するパターンや、URAからRAへ移った際の違い、応用可能な部分についてURAスキル標準策定時のエピソードや、考え方も含めて述べていただきます。

次に、研究者出身の野上識東京大学シニアURAより、担当した業務とその流れ、活用したスキルや学んだスキルからWPI採択までの道程について、当該組織固有のマネジメントのパターンにも触れていただきます。

今回は、研究者とその現場を発展させていくために、URAまたはRA自身の活動をどのようにマネジメントして進めるか、質疑応答も含めて、個人スキルのマネジメントストラテジーを持ち帰っていただきたいと思っております。

◆参加対象：URAやRA等でマネジメントに携わって3年未満の初級者

◆参加方法：RA協議会第4回年次大会の中で開催のため、所定の参加費によるお申し込みを通じてご参加ください。→ <http://www.rman.jp/meetings2018>

◆プログラム

・趣旨説明

・講演

◆山下秀 新構造材料技術研究組合（ISMA）フェロー

URAのシステム整備事業に貢献した前シニアURAより、URAのシステム整備と制度形成後の業務・キャリアパスを通じて（URAの先を示す内容も含む）



企業研究所での研究業務→同研究マネジメント業務→大学での研究マネジメント業務→技術研究組合での国プロのマネジメント業務、と今までの社会人人生の殆どを研究マネジメント業務（プロジェクト立上げ、技術戦略策定、予算立案、進捗・成果フォロー）に費やしてきました。なかなか難しい。

◆野上識 東京大学理学系研究科シニアURA

URAの本走者であるシニアURAより

URA活動とその応用（URAの魅力を示す内容）



1999年東京大学理学系研究科生物科学専攻で学位（博士（理学））取得。獨協医科大学助手、プロジェクト研究員（JST, NEDO）、新領域創成科学研究科特任助教、特任准教授等、15年の研究職勤務をへて2014年5月より現職。2017年3月に東京大学シニアURAとして認定される。研究科として取り組む事業のプレアワード・ポストアワード、研究科運営支援、概算要求、国際連携、研究科の研究力分析等の業務を行っている。

・質疑応答（URAマップを配布し活用する予定）

参考資料：当会では、2017年第3回RA協議会年次大会「URAのベースにあるもの」セッションで使用した「URAマップ」を活用します。事前に当該セッションの「総集編」*をご参照の上、URAマップで、ご自身のURA業務をプロットしてみて参加いただくとより理解が深まるかと思っております。

オーガナイザー：村上壽枝 東京大学政策ビジョン研究センター URA（組織会員外 個人会員）

2018/9/19(水)
10:30-12:00
神戸国際会議場
405会議室
定員50名